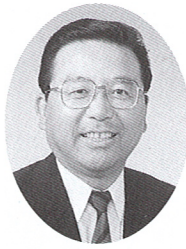


宮私幼 P T A だより

第 77 号

発行者 宮私幼 P T A 連合会
 編集者 渥美 巖
 発行所 仙台市青葉区国分町三丁目 6-12 佐正ビル 6 F
 電話 (022) 263-7040 番



「子どもまんなかプロジェクト」
運動を更に進めよう!
 会長 渥美 巖

「子どもまんなかプロジェクト」は、ともすれば大人の立場や効率性などを優先しがちな最近の社会状況が、子どもの育ちに影響し「ひきこもり」や「いじめ」など様々な問題としてあらわれているのではないかと。そして、その社会状況が子育てをする親たちの閉塞感や不安を助長する原因になっていないだろうか?このような現状を「子どもをまんなか」に位置付けて見直しを図り、子どもが子どもらしく、元気で笑顔いっぱい育つ環境をつくることよって、それぞれの地域が互いに信頼し合い、幸せを求めて努力していく。

以上を趣旨とする運動であり、全国の私立幼稚園関係者が中心になって行っています。宮私幼 P T A 連合会としても、この運動の輪を広げ、更に進めたいと思います。幼稚園を取り巻く動きの中で、国は幼保一体化を含む包括的な子育て支援改革「子ども・子育て新システム」の中で、「子ども園」

の方針を出しておりますが、財源の見通しが立っていないとの報道があります。財源の裏付け等十分議論し、子ども達や幼稚園に迷惑掛からないよう望むものです。

一月六日、村山県私立幼稚園連合会理事長、伊藤振興対策協議会長と共に、村井知事に対し私立幼稚園の運営補助等の増額を要請しました。幼稚園教育は次世代を担う教育の初期であり、家庭と共人間形成の基本を育成する重要な役割を持っており、それぞれの私立幼稚園は建学精神と独自の教育理念の下に、時代に即した特色ある教育を行っていることを、強く訴えました。又、全日私立幼稚園の調べでは、宮城県の子ども一人当たりの補助金は、全国四十一位の下位にあることも知事に認識して頂きました。来年度の予算措置を期待したいと思えます。子ども達の教育環境の改善と保護者の経済的負担の軽減を図る為、皆様のご協力お願い致します。

**全日本私立幼稚園 P T A 連合会
 全国大会に参加して**

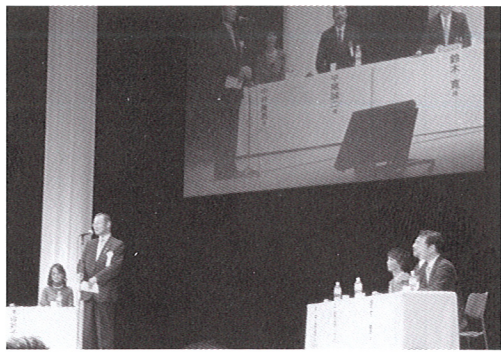


平 貴世
 去る十一月十七日、渋谷 CC101 Mon ホールにおいて、

全日本私立幼稚園 P T A 連合会の第二十五回 P T A 全国大会が開催されました。

「子どもまんなかフォーラム 2010」をテーマに全国各地から保護者代表、幼稚園関係者など約二千名が集い、宮城県からは P T A 役員、宮私幼役員九名で参加しました。

大会式典では、河村建夫全日本私立幼稚園 P T A 連合会会長はじめ、鈴木寛文部科学副大臣の挨拶があり、その中に幼保一元化の事についてもお話がありました。



まだまだ議論が必要な段階であり、今後良い方向に議論が進むよう努力するとお話いただきました。

式典後、『元氣と笑顔を大切に、ゆたかな心と生きぬく力を育てよう』をテーマにシンポジウムが行われました。パネリストは、鈴木寛文部科学副大臣、元ラグビー日本代表監督の平尾誠二さん、女優の中井貴恵さん。コーディネーターは、フジテレビ元アナウンサーの木佐彩子さんで進められました。三人のパネリストの方々が共通して言っていたことがあります。それは「仲間を大切に」「友達をたくさん作ること」です。幼稚園のような友達と生活していく中で、様々な社会性を学び成長していけるのだと感じました。

家庭ですぐに実践できることという事で絵本の読み聞かせのお話を聞くことができました。パネリストの中井さんは絵本の読み聞かせを都内の幼稚園を中心に精力的に行っているそうです。家庭内で絵本の読み聞かせを推奨していました。子供のためだけではなく親自身の成長のためもある絵本。世界で一番の読み聞かせは、子供をひざの上に座らせ、ぬくもりを感じながら読んであげることだそうです。

その後、休憩を挟んでミニコンサートが行われました。歌っていただいたのは「Hiromi」さんです。Hiromi さんも 2008 年にお子さんが生まれ子育て真っ最中ということもあり、この大会のテーマ

ソング「生まれてくれてありがとう」を含む三曲を歌ってくださいました。可愛くてかっこよくて、ママ達の憧れのママという感じがして、本当に素敵でした。

今回参加して、議員の方々やパネリストの方々のお話を伺い、幼児教育の重要性やコミュニケーションの大切さを改めて認識させられました。

最後に、今年度の宮私幼の役員として、貴重な体験をさせていただきましたこと、とてもうれしく思っております。本当にありがとうございました。



おしらせ

- 平成 23 年度総会
 - ・ 期日 6 月 3 日(金) 10 時
 - ・ 会場 仙台市民会館小ホール
- 平成 23 年度 宮城県私立幼稚園教育振興大会ならびに
 - ・ 第 39 回宮私幼 P T A 研修大会
 - ・ 期日 7 月 12 日(火) 10 時 30 分
 - ・ 会場 東京エレクトロンホール 宮城大ホール(県民会館)

「第36回親善バレーボール大会」
熱闘、スーパーアリーナ

すがわら幼稚園(下)
菅原 彰

去る十月十九日、第36回親善バレーボール大会が利府町のセキスイハイム・スーパーアリーナにおいて開催されました。

当日は、天候にも恵まれ早朝から県内各地より多くのチームが参加し、運営にあたった関係者のご尽力により無事に大会を終了することが出来ました。

大会当日もさることながら、事前に行われました代表者会並びに組み合わせ抽選会から多くの皆様のご参加を頂き、バレーボール大会に寄せる皆様の熱気がとても強く感じる事が出来ました。

試合が始まると、選手ばかりか応援の人たちも、さらに盛り上がり、優勝を目指して熱戦が繰り広げられました。

どのチームもこの日のために練



習に励んで来たことと思います。家事や子育てしながらの練習は、いろいろご苦労なこともあったのではないかと思います。

コートの中の白球を追う姿は真剣そのものです。

そして、ゲームセット！

勝つても涙、負けても涙のお母さんたち。もちろん、とびっきり笑顔もありましたが、試合に賭ける意気込みが感じられ、とても感動的でした。

大会が平日開催の為、園児の応援は数える程でしたが、PTA会員の皆様や園長先生方が応援に駆けつけ、最後の一点まで声を張り上げて応援する姿に感動しました。

さて、試合の方は白熱した試合の連続。一点差に涙する姿、また初勝利に応援団と共に涙する姿、各コートでいい汗、いい笑顔が見られました。そしてこの素敵な笑顔を支えてくれる人達に感謝をしたい。遅くまで子どもを預けてくれた園の先生方に深くお礼を申し上げます。

今後も一人でも多くのご参加を頂き、楽しく活気あふれるバレーボール大会が開催されますよう応援させて頂きます。

参加チームの皆様、多くの感動をありがとうございました。最後に、審判団の方々とは大会関係者の方々大変ご苦労様でした。

第36回親善バレーボール大会

入賞チーム

ブロック	優勝チーム	準優勝チーム
A	みやぎ	袋原
B	第二向陽台	蒲町
C	めるへの森	ふたばハイジ
D	みやの森	大野田
E	岩沼南こぼと	ドリム
F	もみじが丘	多賀城高崎



表彰おめでとうございます

〇三宅光信先生

(柴田町・浄心幼稚園理事) 永年、幼稚園長・理事長として幼児教育の充実・発展に功績があり、秋の叙勲において、瑞宝双光章を授与されました。

〇鎌田文恵先生

(仙台市・おたまや・茂庭幼稚園理事)

宮城県私立学校審議会委員として、永年尽力され、この度、退任にあたり、功労者表彰を文部科学大臣より授与されました。

〇村山十五先生

(仙台市・南光幼稚園理事) 宮城県私立学校審議会委員として、永年尽力され、この度、退任にあたり、功労者表彰を文部科学大臣より授与されました。

三人の先生方の受賞祝賀会を、十二月八日ホテル仙台プラザにおいて開催されました。

(副会長 横澤 行夫)



知事陳情報告

副会長 稲富 将夫

新年早々一月六日午前十一時から県庁議室に於て、村井知事の新年の表敬訪問と、平成二十三年度私立幼稚園に対する補助金の増額に関する陳情書をお渡しいたしました。

私立幼稚園連合会から村山理事長外執行部の方々、宮私幼振興対策協議会より



伊藤和夫会長 外役員の方々 宮私幼PTA 連合会から 渥美蔵会長、中島源陽副会長、平貴世副会長、横沢行夫副会長、稲富将夫副会長、任委員の方々、県私学文書課より正木課長の外関係職員との立会いのもと村井知事に対し少子化による社会状況の影響での厳しい経営実態を率直に訴え、平成二十三年度の予算編成におかれましては、東北六県に肩を並べるところまで、ご尽力賜うことを切々とお願いいたしました。宮城県幼稚園の約八十%を占める私立幼稚園の健全な経営と、これらもより一層幼児教育の推進に希望をもって歩めることを強く要望いたしました。知事の陳情のあと、県議会議員長島山和純氏にも面会し、陳情書をお渡し知事・議長は最後まで熱心に耳を傾けていただき陳情内容の実現に最善の努力をすることをお話しをいただきましたことをご報告いたします。

お知らせ
第37回親善バレーボール大会
期日 平成23年10月25日(火)
会場 宮城県総合体育館
(セキスイハイムスーパーアリーナ・利府町)

地区活動報告

平成二十二年 度

石巻地区研修大会

「子どもと造形活動」

矢本はなぶさ幼稚園 (P)

阿部 綾子



昨年十月二十日、石巻文化センターにおいて、宮城県

私立幼稚園石巻地区教育振興大会並びに第十回宮私幼PTA石巻地区研修大会が開催されました。

「子どもと造形活動」一やりとげる力を育てる親のほめ言葉、ダメにするほめ言葉の演題で、アトリエコパン代表の新妻健悦先生にご講演いただきました。

造形教育の子どもたちの作品を見ながら、仕上げた過程を解説していただいたり、会場の参加者と



対話しながらの楽しい講話で、これからの子どもとの接し方を考え直すきっかけとなりました。

私が愕然としたのは、子どもたちにかけていた言葉「うまいね」「これ、なーに？」がダメにする言葉であるということでした。幼少期に「うまいね」とほめられて育った子が、高学年ぐらいいなつて「上手に描けない」と美術嫌になる傾向があるそうです。また、「これ、なーに？」と人間は何かにあてはめて解釈しようとしませんが、何を描いたかわかる作品が正解ではない。子どもの発想や感性の芽を摘んでしまう大人の言葉にはよく注意し、絵を描くことの楽しさを見極めることの方が大切であることを強調されました。

他に、例として『やりとげる力を育てるほめ言葉』に、気持ちのいい色だね・元気がいいね・静かな感じ・楽しそう・ふわふわ等形容詞的表現で、子どもの感覚を

刺激することが大切。『ダメにする言葉』には、そっくりだね・本物みたいだね・よく見てね・おかしな形・形が違うね等、実際の形や様子を強要、他人と比較する表現をしないことと教えていただきました。

最後に、子どもの作品はすべて、その子の心の中や考えを表そうとしたものです。子どものすべてを認め、受け入れ、そして作品を大切にしなければならないことが肝要です。

そのことが将来、人を信頼し、強くなる子に育っていきますとお話しくださいました。

今までの私は、無意識のうちに正解を求め、子どもの自由な発想や感性の芽を摘んでいたことに気付くことができました。有意義な講演をありがとうございました。また、講演会を開催するにあたりご尽力いただいた関係者の皆様に、この場をお借りして深く感謝と御礼を申し上げます。



平成二十二年 度

塩釜地区PTA研修会

「子どもは遊んで育つ」

塩釜カトリック幼稚園 (P)

宮田 果林



平成二十二年十一月十日、塩釜マリンゲートにて、宮

城県私立幼稚園PTA連合会塩釜地区研修会が開催されました。

講師としてお迎えしたのは、尚網学院大学教授の東義也先生。お話の端々に子どもに深い愛情を持っておられることが伺えました。

砂を食べ物に見たて「バナナあげる」「リンゴあげる」と差し出す子の話。「見て！」「見て！」と何度も紙ヒコキをとばして見せる子の話。生き生きと遊ぶ子どもの姿から、先生は遊びの意義を見出してゆきます。紙ヒコキはなりたい自分なのだ、差し出すものはその子自身なのだ、宝探しはその子の心にあるに違いない宝を探しているのだ、と。

一見他愛ない子どもの行動も「遊び」であり、その子を育む大切な体験なのだと思えるのです。意味が分からないから「意味がない」と考えるのではなく、意味が分からないことでも意味があると信頼する。その信頼関係が子どもの心を安らかにし、豊かに育むのでしよう。

先生はまた、遊びとは表現であるとも言われます。〇〇ごっこ

いった遊びの中で、子どもは自らの体験を補強してゆく、あるいは悲しみを癒すことがある、というわけですね。

私達母親も子どもの遊ぶ姿にほほえみ、遊びを通して成長してゆくことを感じています。しかし、いそがしさや躰への責任感との間で、遊びを最優先できない葛藤を抱くこともあるでしょう。

車のハンドルなどの余裕をあそびと見ます。無用に見える余裕こそがハンドルの本来の働きを支えているように、遊びこそが私達の生き方を人間らしいものにしていくのかもしれない。子どもの成長を見守り、愛情豊かに関わっていくべき私達大人にも、遊びという心の余裕は失ってはならないものなのだと感じました。

講演の最後は先生のギター伴奏で「友だちはいいもんだ」を合唱。楽しいながらも、子どもと自分自身について深く考えることのできた、充実した研修会であったと思います。

研修会開催にあたってご尽力頂いた皆様、素敵な講演をして頂いた東先生に厚く感謝と御礼を申し上げます。



会員の広場

「ありがとうの花」

さくら幼稚園 (P)

及川 郁



悪いことしたわけじゃないのに何で謝るの？娘が不思議そうに言います。誰かに助けてもらった時、頂き物をした時。つい口から出てしまうのは「ごめんなさい、助かります」「すいません。御礼の言葉は「ありがとう」なのに、なぜごめんなさい？大人って不思議ですね。

私の好きな歌に『ありがとうの花』という曲があります。ありがとうという言葉でみんな笑顔になり、町中に咲いたありがとうの花は風に乗って明日に飛んでゆく、という素敵な歌です。園行事『親子音楽会』でも歌われました。当日は園児から母親に、小さな手で一生懸命作ったプレゼントと感謝の手紙が用意され、ちよつと照れながら「いつもありがとう」と手渡す子供。嬉しそうに(ちよつと涙ぐみ)「ありがとう」と受け取る母親。制作・演出を手がけて下さった先生方への感謝。皆の笑顔で会場いっぱいになった花が咲き誇り、温かな気持ちになったひととき。日々の「ありがとう」を大切にしたいと思った瞬間でした。皆様の町にも「ありがとうの花」が咲きますように…。

笑顔と歓声に包まれて

九条幼稚園 (P)

熊谷 浩之



「あきらちゃん」と「ラーメンちゃん」のお二人を迎えて、気仙沼地区私立幼稚園PTA連合会の親睦会が、昨年十一月二十八日に開催されました。約二百名の親子の皆さんの参加があり、楽しい舞台が繰り広げられました。様々な趣向を凝らした手作りの演出には、大人も引き込まれてしまうほどでした。「フレージャーお父さん」では、父親の順番がありました。日頃の運動不足のため、ボンボンを持って踊るお父さん達は、息切れ寸前。大いに笑い、大いに動き、ストレス解消。楽しい時間となりました。子ども達やお父さんやお母さんの笑顔に包まれたあそびうたコンサートでした。

打ち合わせの時点で昔からの知人のようなホットな雰囲気のお二人です。声のトーンや身体の動きも意欲をくすぐられ、次は何をするのだろうと思わずにはいられません。話のキャッチボールが温かいお二人には、家庭での親と子の心のキャッチボールの大切さを、あらためて実感させられたことでした。

「あの日の事」

東陽幼稚園 (P)

横田加奈子



思い返せば二年前、入園二日目の事。お友達とうまく

意思疎通できず、行きたくない後半ペソでバスに乗った息子。園に到着しても中に入らず、門の前で二便目のバスを待ち、乗って帰る気で先生方を困らせた事がありました。

どんな説得にも応じず、バスに乗り込み、先生と運転手さんとの会話の後、ようやく園の中へ入り一日を過ごしたとの事でした。私はその話を聞き、驚きと同時に感心しました。次のバスに乗り帰るとい息子の発想と行動力に自宅から園までの短い時間に一生懸命に考えたんだと思います。そして息子はというと、お友達と楽しく過ごし運動手さんからももらった折り紙を手にとり、ご機嫌で帰宅したのでした。そんな息子を温かく見守り、受け止めて下さった先生方、運転手さんにとっても感謝しています。いよいよ卒園。今後、何かにつまずいた時は、この出来事を思い出し、発想豊かに乗り越えていってほしいものです。

巣立ちの時

ふたば幼稚園 (P)

伊藤 庸子



三月、下の子が卒園を迎えます。入園前は公園でも子育てサークルでも「ママ！ママ！」と呼び続けて私から離れない甘えん坊の男の子。上の子が在園中は、参観も懇談会も落ち着けず、保育室の隅で遊び相手しながら参加していました。その中で、幼稚園最後の年に役員をして良かったという話を聞きました。その方は三人目が年長となり、三人もお世話になった幼稚園にやっとな協力できる時が来た、ということでした。役員を引き受けたこのことで下の子に手をとられ行事の手伝いもままならず、ご迷惑かけてばかりだった私は心打たれました。今私にもその時が来たと思いい、役員をさせて頂きました。涙いっばいで入園した下の子は温かい先生方の励ましの中、頼しくなり、行事で手伝う私を見つけて、ニコニコ手を振りま

す。運動会で応援に来る小四の姉は、最後の片付けを率先して手伝ってくれました。小四ともなると口ゲンカも対等ですが、言葉で伝えきれない分、母の背中から協力し合う心や喜びを感じてくれたかな？親子でお世話になった幼稚園、大好きな幼稚園、今春巣立ちます。

あしがき

おかげさまで「宮私幼PTAだより」第77号をお届けすることが出来ました。本号にご寄稿いただきました皆様に深く感謝を申し上げます。

一年間ではございましたが、広報部としてお手伝いをさせて頂いたいただき、貴重な体験の中たくさんのお会いがありました。皆様のご助力のおかげで、大役を努めあげる事が出来ました。誠にありがとうございます。お礼を申し上げて、あとがきとさせていただきます。

(広報部長)

編集委員

- 副会長 稲富 将夫(夫木はなまき)
- 事務局次長 横澤 行夫(お人形社T)
- 事務局長 小野 暢彦(清水T)
- 部長 横山 友美(中田P)
- 副部長 浅野 辰之(登勢トランプ)
- 部長 相楽 知子(中田P)
- 部長 熊谷 浩之(九条P)
- 部長 畠山ひで子(九条T)
- 部長 及川 郁(さくらP)
- 部長 佐藤 澄江(さくらT)
- 部長 結城 瞳(純心P)